

103P

- 19【問】 先攻チームが1点リードして迎えた最終回の裏、1アウト走者二・三塁、打者が妨害されながらも右翼フライを打って2アウトとなったが、三塁走者はリタッチして生還、二塁走者もリタッチして右翼手の本塁悪送球によって三塁を回って生還した。どう処置したらよいか。
- 【答】 監督の申し出がなければボールデッドとし、三塁走者を三塁に、二塁走者を二塁に戻し、打者走者は打撃妨害で一塁が与えられる。(5.05b(3))

↓

打者は打撃妨害で一塁へ、走者を戻してから攻撃側監督に選択権を与える(サヨナラのケース 5.05b(3)野球審判員マニュアル第4版 P165 参照)

110P

- 42【問】 1アウト走者一・二塁、ヒット・エンド・ランが企てられ、打者は右中間へフライを打った。進塁を企てスタートをきっていた二塁走者はリタッチのため三塁直前から二塁に戻ろうとしたが、一塁走者は二塁を越えており、二・三塁間に二人の走者がいたとき、捕球した中堅手からの一塁への送球が悪送球となってスタンドに入った。二塁を越えていた一塁走者にも本塁が与えられるか。
- 【答】 2人の走者に本塁が与えられるが、一塁走者は一塁のリタッチを果たしていないため、守備側のアピールがあればアウトになる。ただし、リタッチのために一塁に戻った場合は、その走者には三塁が与えられる。したがって、審判員としては、二・三塁間にいた走者にはまず本塁を与え、一塁走者がリタッチのために一塁に戻ったら改めて三塁を与える。(5.06b(4)(G)【原注】、(I)【原注2】)

↓

本塁は与えられない。リタッチを果たさなければならない塁、つまり投手の投球当時占有していた塁(一塁)が進塁の基準となるから三塁が与えられる。(5.06b(4)(G)【原注】、(I)【原注2】)

149P

- 187【問】 投手が乱調にになったので監督がマウンドまで行ってアドバイスをして戻ったが、投手が四球を連発したので監督が再び投手のところへ行った。差し支えないか。
- 【答】 同一イニングにその投手のところへ2度行ったので、その投手は自動的に交代させなければならない。なお連盟では、他の守備位置に付くことが許される。(5.10I、競技に関する連盟特別規則(各大会共通)6(2)、12(2)) 監督またはコーチ等が、同一イニングに、

同一投手のところへ2度行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使うか、プレーヤーに指示を与えてそのまま投手のところへ行かせた場合)は、その投手は自動的に交代することになる。なお救援投手の場合は投球義務を終了してから交代することになる。(5.10f)「連盟」では、監督またはコーチ等がプレーヤーとして試合に出場している場合は、投手の所へけば野手としての1度と数えるが、協議があまり長引けば、監督またはコーチ等が投手の所へ1度行ったこととして通告する。

なお、監督またはコーチ等が、投手の所へ1度行くか、行ったとみなしたときは、球審は、あと1度行けば交代になる旨を通告する。もし、1度目に通告しなかった場合は、2度目に行こうとしたときその旨を監督に知らせる。(5.10i、競技に関する連盟特別規則(各大会共通)6(2)、12(2))



1 試合に 3 回までならさしつかえない(5.10i(2)は適用しない)

165P

- 52【問】 打者が中堅前に安打し、一塁を回ったときボールを持たない一塁手と衝突して倒れた。中堅手から一塁へ送球されてアウトになった。どう処置したらよいか。
- 【答】 オブストラクションで打者走者を一塁に生かす。(6.01h(2))



プレイ落着後協議してオブストラクションで打者走者を一塁に生かすか二塁への進塁を認める。(6.01h(2))